

さらば自虐史観！ いま新しい歴史観の時代へ！

轟々たる反響の中、国論を二分する一大言論戦の幕はあがった。
いっさいのタブーを排し、いま知的衝撃の扉がひらく。



故 中 村 稔

知名度抜群の歴史学界最大のカリスマ

独協大学教授 昭和史研究所代表 NHK 報道を考へる会代表

昭和9年生まれ。東京大学文学部卒業。現在、独協大学教授(日本近代史専攻)。昭和45年より朝日新聞やNHKなどの偏向報道を批判する活動をおこない、ミニコミ「日本人の声」を発行。翌46年日華断交に反対して、台湾支援運動を展開。昭和50年より毎年、学生を引率して自衛隊体験入隊及び靖国神社参拝を実行。日本近代史の見直しに積極的に取り組み、幾多の歴史論争の主役となる。昭和61年、「藤尾発言」をめぐる韓国側と「日韓歴史論争」をおこない、日韓併合の真相を論証。その天才的学識力に依り多くの名論文を発表しつつ、保守文化人きっての最“行動派”としても知られ、数々の社会是正運動のリーダーとして活躍。平成7年の「国会謝罪決議」に反対する抗議集会(4000名参加)を主導し、国会請願デモ、偏向マスコミへの抗議デモなど謝罪決議阻止運動の指揮を取る。さらに、日本を守る国民会議(現・日本会議)・日本世論の会・興亜観音を守る会・その他多くの団体の主要役員もつとめ、もっとも活動的な歴史学界最大の「カリスマ」として勇名をはせる。平成7年に編纂委員をつとめた「東京裁判却下未提出弁護側資料(全8巻)」で第43回菊池寛賞を受賞。平成8年、大東亜戦争従軍経験者がご存命たる間に証言や資料を収集保管しなければならないと決意し、私財を投げうって「昭和史研究所」を設立し代表に就任。同時に、「NHK報道を考へる会」(代表就任)を設立してNHK不払運動を提唱。さらに、学生や若者に歴史の真実を伝えるため、「青年学生セミナー」を開講し、毎月各界専門講師を招いてのセミナーを主宰する。代表的著書「大東亜戦争への道(展転社刊)」は、ペンタゴン(アメリカ国防総省)より「これこそ正しい歴史の真相である」と評された。他の著書として「韓国併合とは何だったのか」「大東亜戦争はなぜ起こったのか」「慰安婦問題の虚像と実像」「張鼓峰事件」「日本弁護論①②」。共著書としては「大東亜戦争の総括」「若き日の大東亜戦争」(以上展転社刊)「日本は侵略国家ではない」等がある。現在、雑誌「月刊 正論」にNHKウォッチングを連載中。連日連夜、各地での講演と昭和史資料収集のために、休むことなく全国を飛びまわって超人的に活躍中。